

秋建時報

<http://www.a-kenkyo.or.jp>

秋建時報

平成24年10月1日(第1221号)



発行／(社)秋田県建設業協会

秋田市山王四丁目3番10号

TEL 018(823)5495

FAX 018(865)2306



絵／文 白澤 恵舟

「仙境逍遙」

中国名山の黄山、泰山、万里の長城、玉龍雪山などから

受けた感動を一気呵成に描いた心象風景

理事会・協議員会

東北ブロック会議提出事項等を協議

秋田県建設業協会は9月11日、平成24年度第3回理事会及び第2回協議員会を開いた。

会議では、報告事項として公益目的

財産額の確定、融資制度（下請セーフティネット、地域建設業経営強化融資制度）についての説明が行われたほか、協議事項として10月10日開催の

東北ブロック会議への提出事項、社会保険未加入対策、一般社団法人秋田県建設業協会ビジョンなどの協議が行われた。



【報告事項】

- 1) 公益目的財産額の確定について
- 2) 融資制度について

【協議事項】

- 1) 東北ブロック会議提出事項について
- 2) 社会保険未加入対策について
- 3) 防災訓練について
- 4) 緊急通行車両の事前届出等について
- 5) 一般社団法人秋田県建設業協会ビジョンについて

アス合協

平成24年度 安全衛生・環境パトロール

アスファルトプラントの安全操業

日本アスファルト合材協会東北連合会と秋田県アスファルト合材協会は合同で9月26日に平成24年度安全衛生・環境パトロールを実施した。

このパトロールはアスファルト製造業界の自主的な取り組みとして毎年実

施しており、会員参加のもと、工場の安全操業体制の確認のほか、各工場において参考となる安全対策の提案・情報交換の場ともなっている。

今年度は、大仙市協和の秋田中央アスコン共同企業体（日本道路、東亜道

路工業）を対象に東北連合会パトロール班と秋田県合材協会会員18名が参加し、場内の重機・車両の運行状況、機械設備の保安、安全対策等について巡回確認を実施した。

工場パトロール終了後は、場所を大仙市協和市民センターに移し、検討会を実施。場内巡回結果の講評のほか、アスファルト製造業界を取り巻く現況等について情報交換を行った。

建災防

菅原名誉会長に感謝状を贈呈



建設業労働災害防止協会（錢高一善会長）から伊藤事務局長が来協し、建災防副会長を三期務めた功績により、本会の菅原名誉会長へ感謝状を贈呈した。（平成24年9月6日・秋田県建設業会館役員室にて）



平成24年度第1回 「新技術・新工法」説明会



9月4日、秋田県建設部は秋田県建設業協会と秋田県土木施工管理技士会との共催により秋田県庁第2庁舎において平成24年度第1回「新技術・新工法」説明会を開催した。

この説明会は、公共工事におけるコスト削減、施行性・安全性の確保、ライフサイクルコストの低減、受発注者双方のスキルアップを目的としたもので、秋田県・県内市町村職員や公共事業等の調査、設計、施工に携わる関係者が参加、秋田県建設業協会会員企業から119名が参加した。

【説明内容】

- モービルマッピングシステム
(株式会社ナカノアイシステム秋田支社)
- ロメンキャッチャーVP
(ニチレキ株式会社秋田営業所)
- レストム工法
(株式会社ネイティブ・スペース)
- 上部障害クリア工法
(株式会社技研製作所)
- MAP工法
(東亜道路工業株式会社)
- ラップブロック工法
(環境工学株式会社)
- 省力化かご工
ハイパーマット多段型・平張り型
(共和ハーモテック株式会社東北支店)
- グリーンパネル工法
(株式会社ダイクレ)

(財)建設業福祉共済団から

建退共秋田県支部から

※上記の記事はホームページに掲載されています。

<http://www.a-kenkyo.or.jp>

秋田・鉄 路の情景

Vol.
1

「タブレット交換」

小坂町某所

文と写真/加藤隆悦

フリーカメラマン兼フリーライター
取材・執筆歴/旅の手帖、WoodyLife、
ベンチャー・リンク、郷、ある他
海外取材歴/ドイツ、アメリカ、ブラジル
写真塾・写楽 主宰/写真教室、撮影ツアー
企画等



一日の間に何本もの列車が行き来する鉄道路線では、一本一本の列車の動きを正確に把握し管理しなければ衝突事故などの惨事を引き起こす。

技術の進歩した今は自動化された信号や運転指令室による一元的な運行管理が主流になってきたが、一昔前まではタブレット閉塞式というアナログなシステムが使われていた。AとCという駅の間にはBという列車交換駅があったとすれば、A B駅間、B C駅間にはそれぞれ一基のタブレットしか用意されておらず、A B区間用のタブレットを携えてA駅からB駅まで来た列車は、B駅でB C区間用のタブレットに交換しなければならない。そのタブレットがC駅を発車した列車が携えているのであれば、その列車がどんなに遅れていてもA駅発列車はB駅で待っていなければならないのだ。しびれを切らしてタブレットなしでB C区間に進入することは絶対許されない。

この、いかにも前時代的なシステムはさすがに絶滅危惧種となり、年々減少傾向にあつて、JRでは最後のタブレット使用区間であった只見線(福島県)が本年9月を持って運用を取りやめた。

秋田県内では現在唯一、由利高原鉄道前郷駅でこのタブレット交換風景が見られる。本荘と矢島のほぼ中間に位置するこの駅で、先に到着した列車のタブレットを駅員が受け取り、あとから到着する反対列車のタブレットと交換し、また先着列車に進行区間のタブレットを引き渡す。この一連の流れが駅員の手作業で行われる。

考えてみれば、今となつてはこれとはとても貴重な鉄道風景だ。世の中はすべからく合理化省力化の方向に進みがちだが、由利高原鉄道はむしろこの方式を守り、永く残し、積極的にPRすればいい。それによって全国から鉄道ファンや写真愛好家が訪れることだろう。

今は空前の鉄道ブーム。老若男女を問わず鉄道に関心を持つ人が増えているこの時期、タブレットは貴重な観光資源にすらなりうる。

乗りたくない 「欲望という名の電車」

藤原優太郎

形のあるものは必ず壊れる。今年はその当たり年になってしまったようだ。春以来、次から次と色々な物がトラブルを起こして壊れ続けている。

最初はパソコン。デスクトップとノートパソコンが同時に故障し、追いかけるようにプリンターまでいかれた。好きと嫌いにかかわらず仕事上欠かせないツールとなってしまう、専門ショップに持ち込んだらいずれも再起不能とのこと。寿命とってしまえばそれまでだが、電気製品でも何でも最近のモノに修理というのは合理的ではない。

「新品に交換した方が安いですよ」と言われれば「そうですか」と言うしかない。元々無い物であれば修理も何も不要ではあるが、使用しないわけにもいかないし、結局はいずれも新品に交換した。

夏の猛暑のさなか、家のエアコンが故障した。省エネとばかり扇風機で我慢したのだが、さすがに限界があった。これも交換するしかなかった。

あらゆる場面で、モノは必ず壊れ、寿命があることは知らねばならない。愛車も17万キロ走ったらしきりに新車購入を勧められた。しかしそれは車検で切り抜けた。時計の電池が切れたので交換したら、その後、文字盤ガラス内部が曇ったので直してもらった。「安い時計だからしょうがないですね」とは余計なお世話だ。老眼鏡も交換した。

ついでにというべきか、携帯電話まで壊れて使い物にならなくなった。これも新品交換である。

ことほど左様に、今どきはすべてとっていいほどIT化された製品が多く、ほとんどコンピュータ制御にかかわる製品が多い。アナログはもはや時代遅れということなのかも知れない。



現代人の姿を映す自然の鏡

コンピュータ製品はその心臓部にICチップが使われている。一時期、半導体工場でICチップの良品、不良品を仕分けるプロセスチェックの仕事をしたことがある。問題はその良品と不良品の境目で、ぎりぎり良品(不良品かも知れない)と判断されたものは、どうなるのだろうと疑問なことしきりであった。あるメーカーのカメラに使用されると聞いたが、その社のカメラを買う気はしなかった。

モノが壊れるのは冒頭述べたように寿命があるから仕方がないといえ仕方がない。それがもし身体や心が壊れてしまったら…。治療はともかく交換は難しいから脳もココロも複雑だ。

あらゆる場面でコンピュータに支配される現代社会。考えてみるとすべて人間の「欲望」が根底にある。便利さと快適さばかり求めると、行き着くところは地獄しかない？ 最後は精神に異常をきたし極楽世界と気づくのは、ビビアン・リーとマーロン・ブランド主演の「欲望という名の電車」(テネシー・ウィリアムズの戯曲)の映画のとおり、終末世界しかない。

肉体や精神、果ては生命まで、医療コンピュータで制御されるとなれば、現代社会とはなんと恐ろしいものであるか。身近な機器が壊れるうちはまだいいとしなければならないのだろうか。